

令和6年度山形県立やまなみ学園虐待防止委員会の開催について

1 概要

やまなみ学園虐待防止委員会を開催し、下記議題について協議しました。

- (1) 虐待防止の取組体制について
- (2) 虐待防止の具体的な取組みについて

委員会で出された意見等を踏まえ、引き続き虐待防止の取組みを推進していくことを確認しました。

2 開催日時

令和6年11月26日(火) 13時30分～14時40分

3 構成員

(委員)

所 属・役 職	備 考
山形県社会福祉事業団 山形県総合コロニー希望が丘 所長	外部委員
やまなみ学園愛育会 会長	外部委員
山形県立米沢養護学校 校長	外部委員
置賜総合支庁子ども家庭支援課 課長	外部委員 ※オンラインでの参加
山形県福祉相談センター 副所長	外部委員 ※オンラインでの参加
山形県立やまなみ学園 園長	虐待防止責任者
山形県立やまなみ学園 療育主幹	虐待防止担当者
山形県立最上学園 園長	オブザーバー ※オンラインでの参加
山形県立鳥海学園 園長	オブザーバー ※オンラインでの参加

4 委員からの質問・意見

○毎月職員が自らチェックする「職員倫理セルフチェックリスト」について、「暴力・威圧の禁止」の項目内容「児童に対して、いかなる理由があっても、暴力や身体的苦痛を与える行為等はいけません」は、どういった意味なのか、何か気づきがあった人がチェックしているのか。

また、前年に比べて少なくなっている項目について、振り返りも含めて、結果の分析はしているか。自己チェックが一番大事だと思っている。何も気づきがないのは危ないなと思っている。

(学園回答)

・食事や集団行動の日課がある中で、なかなか流れに乗れない児童に対し、ちょっと強い口調で言ってしまったことなどを△として載せている。お互いに指摘し合ったり、自分の戒めのためにチェックするということが大事と考えている。

具体的に分析には至っていないが、「ニコリホット」として記述してもらっている内容がある意味抑止になっているかもしれない。分析については、次回までの課題とさせてほしい。

○職場の環境（職員配置、受講体制等）が整ってないと虐待につながる部分もあるかと思っている。外部研修に参加された場合、職場での伝達研修をするだけにとどまらず、水平展開してほしいと思う。

○意思決定支援が大事だと考える。意識した支援や重度の方が少しでも意思を確認できるような体験についての取組みもお願いしたい。

○一生懸命研修に取り組んだり、子供たちのことを考えてすぐやってくれることに、改めて感謝の気持ちでいっぱい。正直、最初に預けるとなった時、すぐ悩んだ部分もあったが、今は本当に良かったと。安心して預けると体感できた。

○一般的に、業務に負担感があるところに子どもの虐待があったという風を感じた事案があった。日課等の流れに乗れない子供さんに負担感があると、そこが虐待の芽になりやすいのかと感じている。

業務の負担感を少しでも共有できるのであれば、職員の負担感も減って、虐待の芽も摘んでいけるのかと感じている。

○入所のお子さんに適切な療育サービスを実施し、生活の場所として安全安心な環境を提供するために、重層的な対策を講じていると思う。職員のセルフチェックで毎月同じ項目をチェックすることで、職員に意識化されると思うので良い取組みだと思う。

○年間通して研修が組まれており、意欲的である。職場内研修で、4月2日に新任研修を行っており、とても早い時期に虐待防止にすぐく力を入れて取り組まれている。新任職員向けのフォローアップを5月に行っているが、早いことはないか。

(学園回答)

・フォローアップ研修は新任職員に対するもので、対人支援の中で重度のお子さんの支援に困難性を感じているところがあるかと思われ、早めて実施した。支援者のニーズに応じて、下半期にもう1回フォローアップする時期を調整しようかと考えている。

○当方においては、体制として、職員の専門性の向上として研修をベースに、発生時にどう動くか、事故対応で再発防止に向けて、ヒヤリハット事例からどんどん出してもらい、ケース検討している。

○ケース検討事例で、有効でないすべきでない対応や「ニコリホット」については、参考になるな、活用していきたいと考えている。

○とにかく気軽に何でも話せて、風通しの良い職場ということが一番に進めているところ。

○当方における虐待防止委員会でも、再発防止に向けて色々な取り組みを行ってきたが、取り組みも4年目となり、マンネリ化・風化しないように意識して努めてきた。年度初めに、転入者を含めた全職員に虐待防止の取り組みの必要性について、改めて認識する職場研修を早々に開催。児童支援検討委員会や行動制限適正委員会などにおいて、絶えず事例の検証・検討を行うことにより職員の意識を高く保ち続けることに意を用いてきたところ。

○やまなみ学園でも常に取り組みを再評価し課題を洗い出して、より良い取り組みに繋がっていると感じた。今後当施設でも参考にしていきたい。

○当方においても、身体拘束の面で、医療機関の受診や嘱託医による診察、予防接種時に、連鎖的な不穏にならない様、児童の順番を組み立てたり様々やっているが、なかなか苦慮している。

○19歳になる2名の方の移行支援が大きな課題になっている。やまなみ学園の様々な取り組みについて、今後の運営の参考にさせていただく。

以 上